なぜ、フォーカスシステムズは Magic xpiと歩み続けるのか
～弊社のxpi事業の取り組み～

2022年6月9日

株式会社フォーカスシステムズ

デジタルビジネス事業本部　SI＆コンサルティング事業部

Focus Systems

自己紹介

Current Role

2020年「フォーカスシステムズ」 入社

xpi事業の立ち上げと事業強化

Experience

人事システム、教育支援システムの開発

Javaベースのスクラッチ開発

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

会社概要

システムインテグレーション

官公庁や民間企業向けに公共システム・業務アプリケーションなどのシステム開発やIoTに関わる製品やサービスを展開しております。

ITサービス

情報システムに関するコンサルティングから開発、運用・保守を含めた一貫体制でインフラ設計・構築や技術・運用サポートを実施しております。

情報セキュリティ

自社セキュリティ製品のご提供や、システムへのセキュリティ機能の組み込み、デジタル・フォレンジックにおける調査・解析などサポートしています。

弊社拠点

会社概要

会社名	株式会社フォーカスシステムズ
株式市場	東証第一部（4662）
代表	森 啓一
設立	1977年4月1日
資本金	29億円（2021年3月末現在）
従業員数	1,238名（2021年3月末現在）
売上高	234億円（2021年3月期）

会社沿革

1977年	弊社創立
1996年	現東証JASDAQ市場上場
	～～～中略～～～
2015年	東京証券取引所市場第二部へ変更
2015年	ベトナムオフショア事業開始
2016年	東京証券取引所市場第一部上場
2020年	SAP関連ビジネスの戦略的拡大
2022年	プライム市場(4662)へ変更

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

デジタルビジネス事業本部

Focus Systems

デジタルビジネス事業本部	サーバ・ネットワークといったインフラ基盤の構築/運用/保守から、基幹システム・情報システムといったアプリケーションの開発まで、システム構築におけるほぼすべての領域に対応したビジネスを展開している本部です。

One Stop提案/支援

アプリケーション開発技術部門
SI&コンサルティング事業部

・システム共通基盤「intra-mart」を用いたシステムインテグレーション
・ERPパッケージ「Biz∫、SAP」を用いたシステムインテグレーション
・java,javaScript,JspといったWebシステムのシステムインテグレーション

インフラ基盤技術部門
エンジニアリング事業部

・インフラ基盤・ネットワーク領域の検証・構築/運用/保守
・パブリッククラウド「AWS、 Azure等」を利用したシステムインテグレーション
・ネットワーク製品テクニカルサポート
・RPA「UiPath」のライセンス販売、導入支援、保守サービス
・24時間365日の保守サービス

SAP Biz∫ kintone Google Cloud Platform MarkLogic intra-mart magic SAP Concur aws UiPath

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

ETL/EAIの世界に
なぜ、足を踏み入れたのか・・・

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

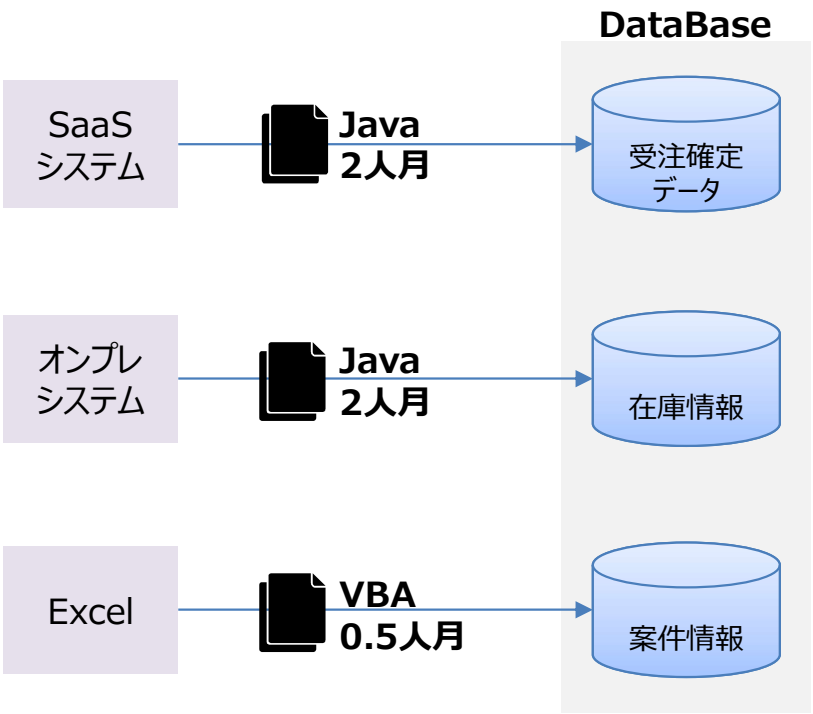
Focus Systems

インターフェースのこれまでの実装

これまで実装

個別IF開発

コスト高/保守性低＝お客様満足↓



Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

どのツールを使うのが最適なのか・・・

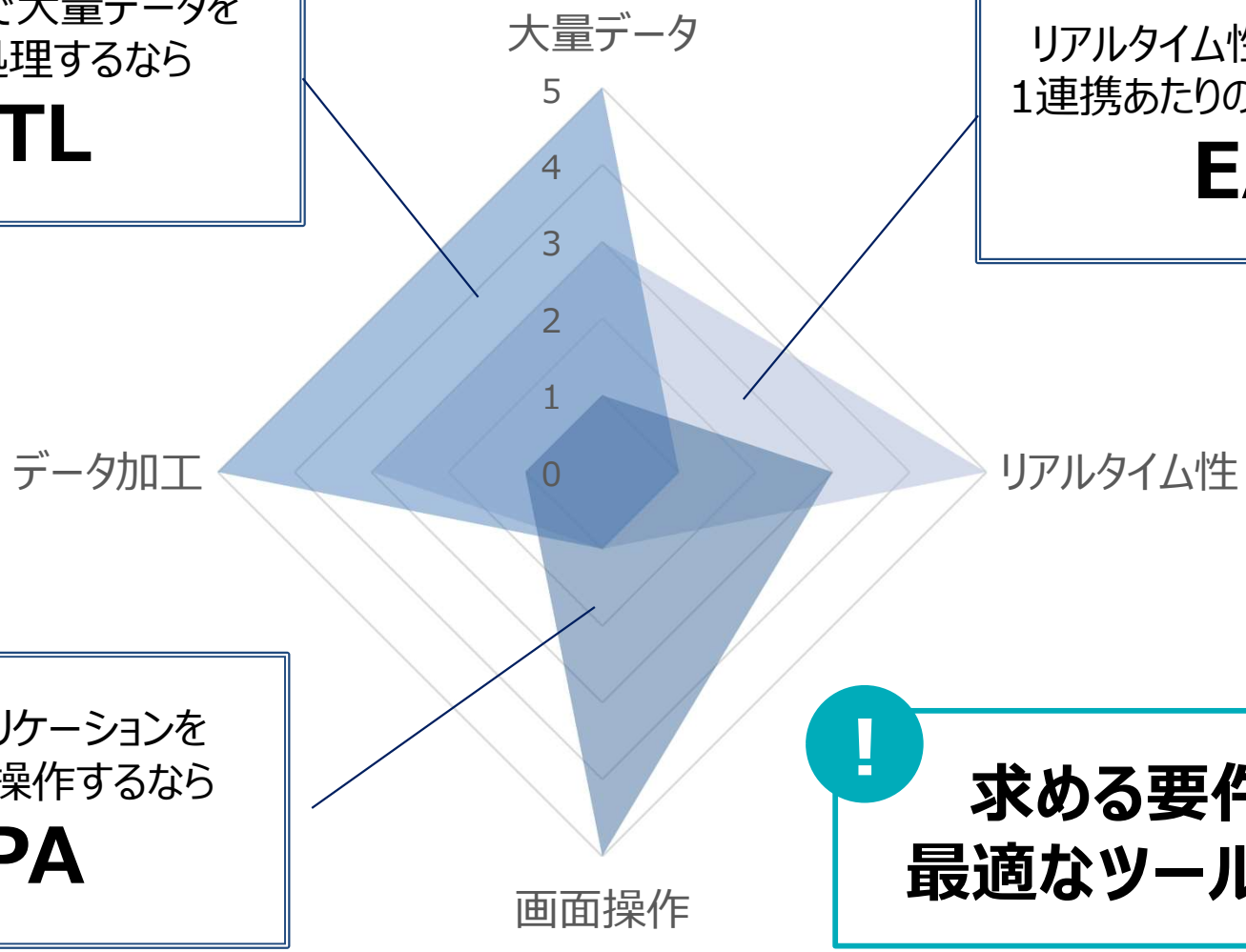
Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

Focus Systems

ツールの特性を理解し選択する

夜間バッチで大量データを
一気に処理するなら
ETL

リアルタイム性重視するなら
1連携あたりのデータ量少ない
EAI



既存のアプリケーションを
画面上から操作するなら
RPA

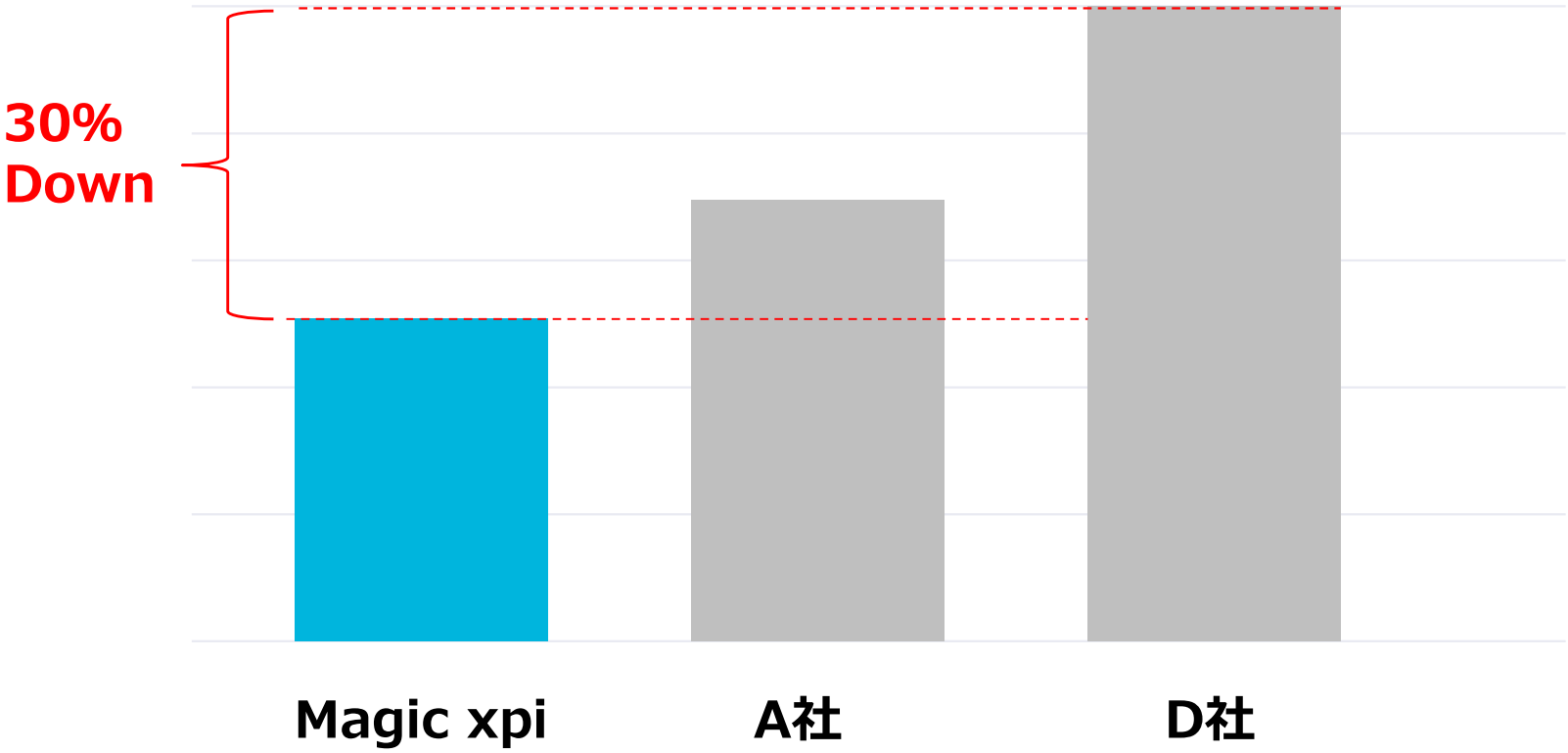
求める要件により
最適なツールは決まる

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

イニシャルコストのメリット

CPU(コア)ライセンスではなく、**スレッドライセンス**のため、
必要な分だけ購入できるのでイニシャルコストを削減できる

イニシャルコスト比較結果



Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

Focus Systems

障害発生時のダウンタイム低減

Magic xpiのアダプタは**全て自社製品**のため、保守性が高い。

他社製品の場合		Magic xpiの場合
パートナー企業	**アダプタ開発**	マジックソフトウエア
アダプタの種類ごとに異なる	**アダプタの サポート範囲**	一元化
あり	**障害発生時 サポート切り分け**	なし
大	**障害発生時 ダウンタイム**	**小**

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

Focus Systems

ランニングコストのメリット

開発ツールが技術者、ベンダー以外でも**操作しやすく内製化**しやすい

Point

わかりやすいUI

VisualStudioをベースで作成された
開発ツール(MagicxpiStudio)

トレーニングの充実

日本語のトレーニングテキストあり
公式トレーニングプログラムあり

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

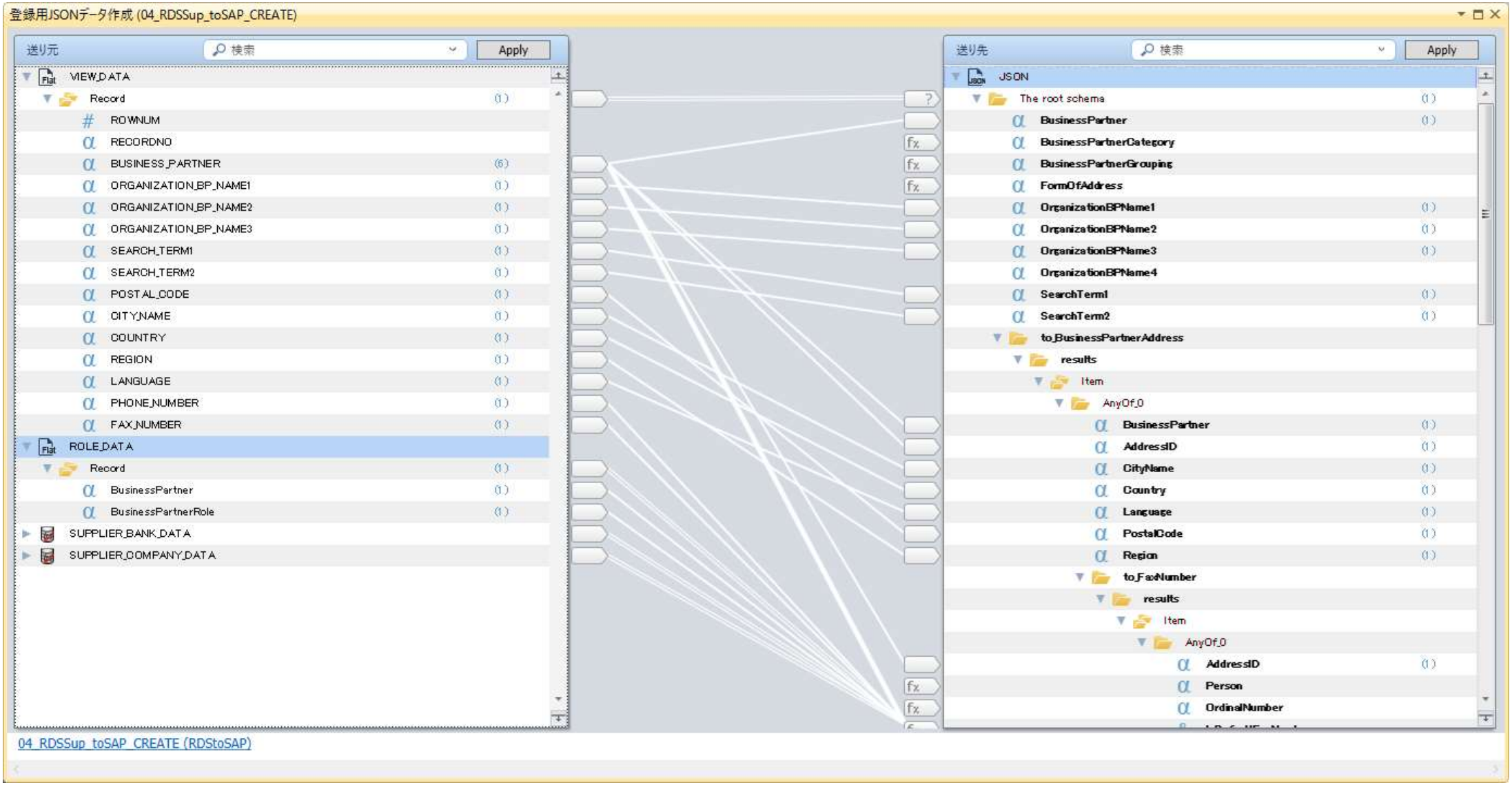
なぜ Magic xpi なのか

Focus Systems

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

なぜ Magic xpi なのか

Focus Systems



Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

Focus Systems

ランニングコストのメリット

開発ツールが技術者、ベンダー以外でも**操作しやすく内製化**しやすい

Point

わかりやすいUI

VisualStudioをベースで作成された
開発ツール(MagicxpiStudio)

トレーニングの充実

日本語のトレーニングテキストあり
公式トレーニングプログラムあり

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

なぜ Magic xpi なのか

Focus Systems

Point

Magic xpiのこんなところが便利

- ✓ 1つのフローに複数のトリガーが設定できる
- ✓ SQLウィザードにより単純なSQLはほぼ自動生成できる
- ✓ プロジェクトのドキュメント生成機能

Magic xpiでこんな風に工夫している！

- ✓ エラー処理、トリガー処理を外部コントローラ用プロジェクトとして作成
- ✓ Magic xpi スタンバイプロジェクトのメモリ削減
- ✓ SAP S/4HANA Cloudとの連携

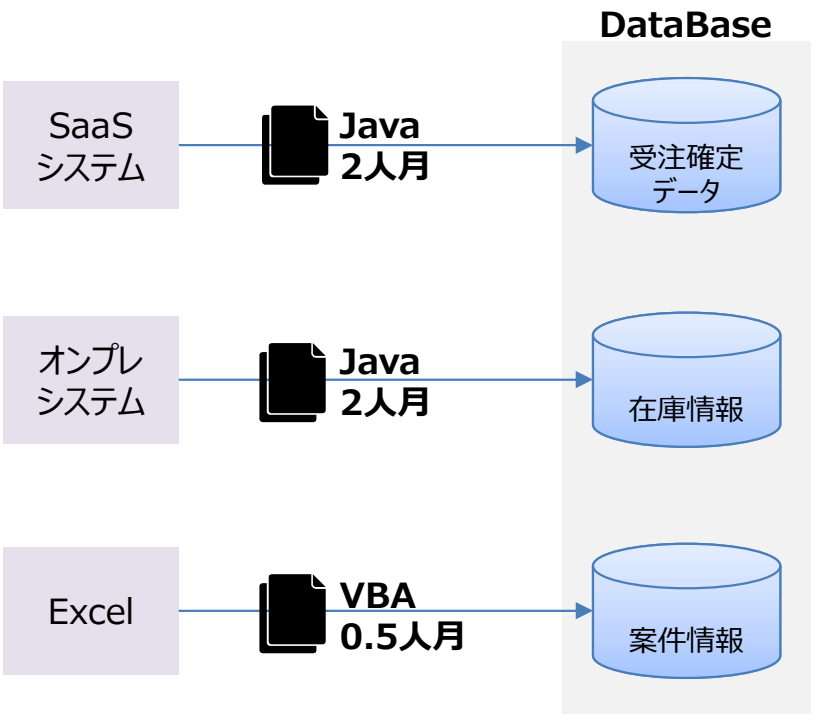
Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

インターフェースのこれまでの実装とこれからの実装

これまで実装

個別IF開発

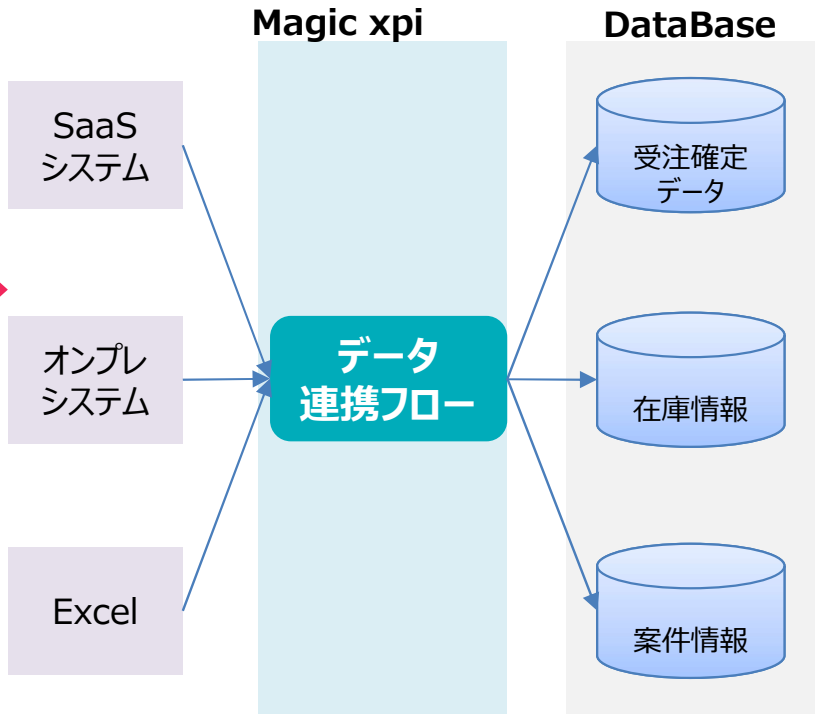
コスト高/保守性低＝お客様満足↓



ETL/EAIツールでの実装

IFを一元管理

コスト減/保守性高＝お客様満足↑



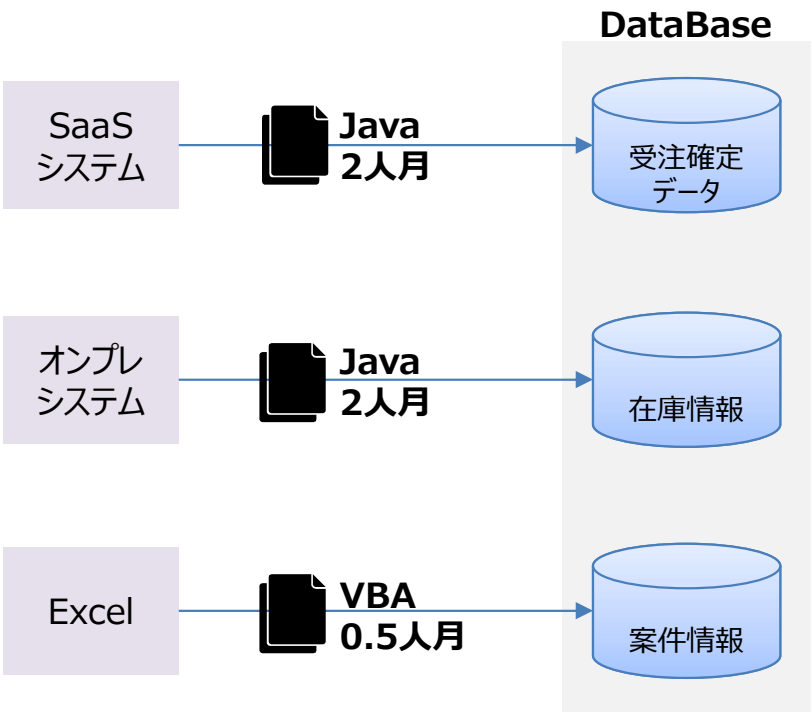
Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

Magic xpi のデータ連携基盤を構築する効果

これまで実装

個別IF開発

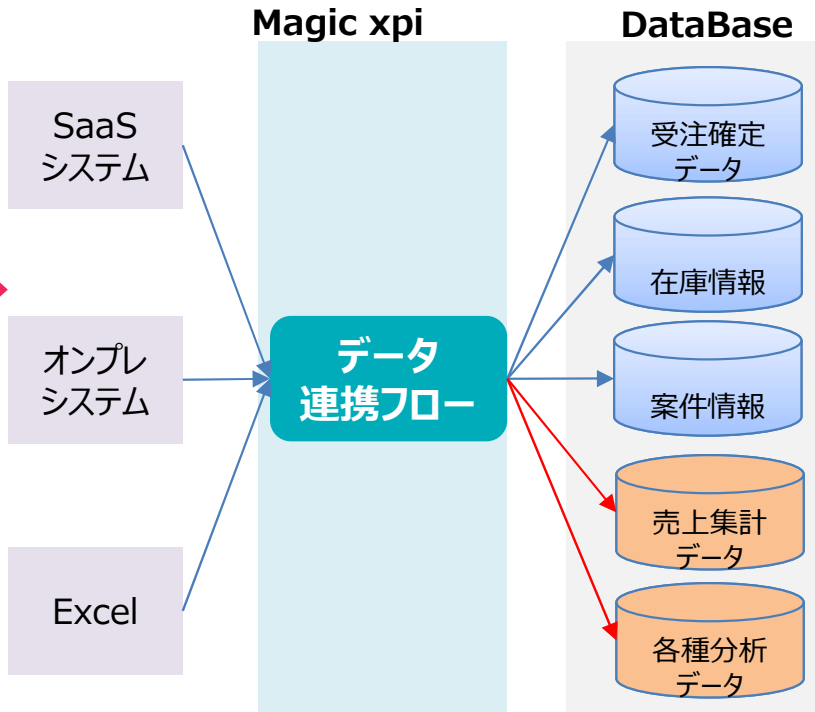
コスト高/保守性低＝お客様満足↓



ETL/EAIツールでの実装

IFを一元管理

コスト減/保守性高＝お客様満足↑



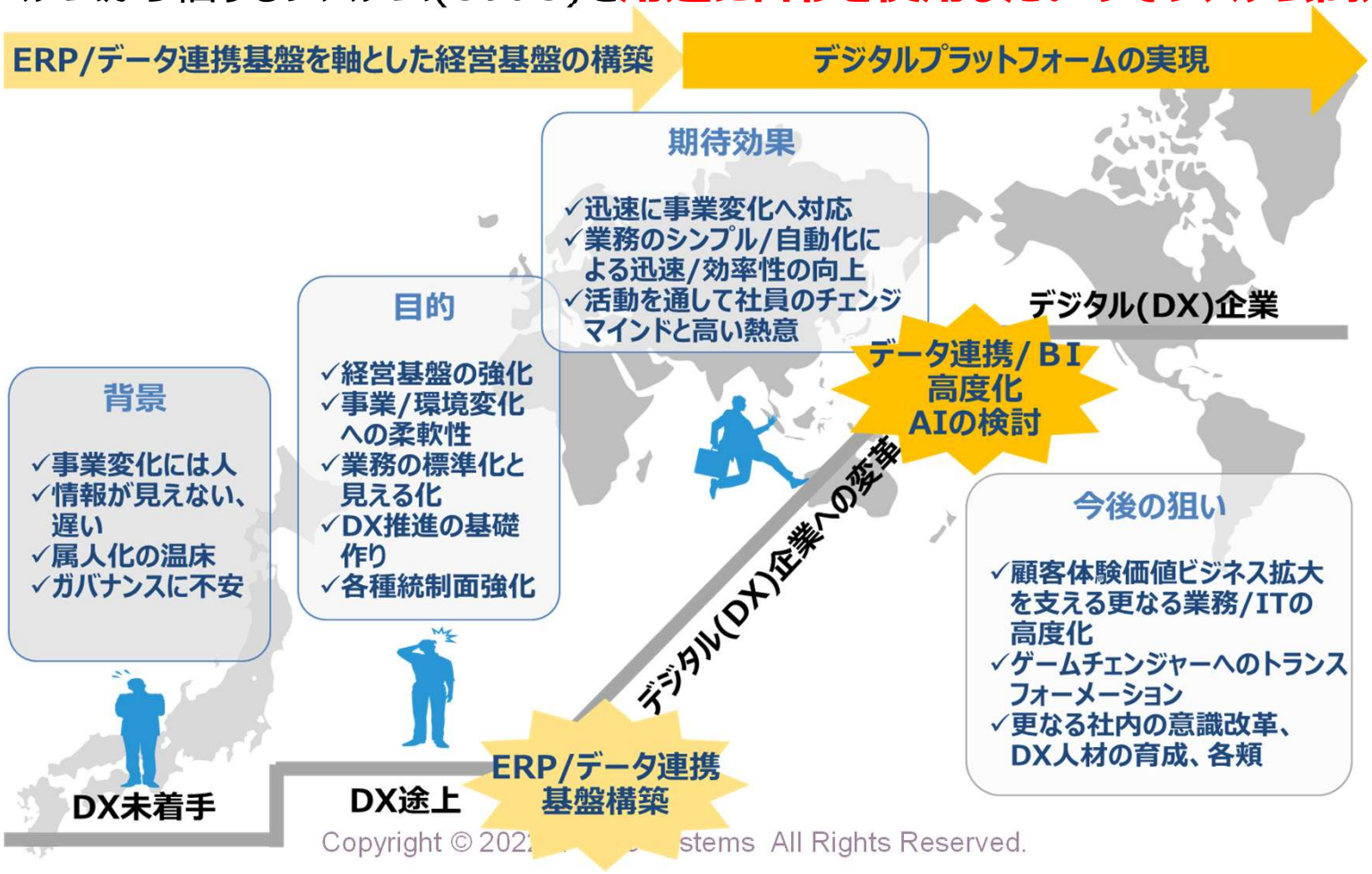
Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

データ連携基盤必要性とDX推進事例

Focus Systems

お客様の動向と事例

- ✓ 基幹システムの刷新を急がれるお客様が増加していると共に**データ連携基盤の構築を求められる**ケースが増加傾向にあります。
- ✓ ニーズの変化には、複数の背景がありますが、特に多く聞かれた内容は下記になります。
  - ・デジタル(DX)化に向け**情報収集機能の強化や自動化**
  - ・作るシステムから借りるシステム(SaaS)を**用途に合わせ使用したいのでシステム間連携**が必須



Copyright © 202 stems All Rights Reserved.

クラウド・バイ・デフォルト原則

Focus Systems

政府情報システムにおけるクラウドサービスの利用に係る基本方針（案）　https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/cio/dai77/siryou.html

クラウド・バイ・デフォルト原則（クラウドサービスの利用を第一候補）

- 政府情報システムは、クラウドサービスの利用を第一候補として、その検討を行う
- 情報システム化の対象となるサービス・業務、取扱う情報等を明確化した上で、メリット、開発の規模及び経費等を基に検討を行う

Step0：検討準備

クラウドサービスの利用検討に先立ち、対象となるサービス・業務及び情報といった事項を可能な限り明確化する。

Step1：SaaS（パブリック・クラウド）の利用検討と利用方針

サービス・業務における情報システム化に係るものについて、その一部又は全部が SaaS（パブリック・クラウド）により提供されている場合（**SaaS（パブリック・クラウド）の仕様に合わせ、サービス・業務内容を見直す場合も含まれる**。）には、クラウドサービス提供者が提供する SaaS（パブリック・クラウド）が利用検討の対象となる。

Step2：SaaS（プライベート・クラウド）の利用検討

サービス・業務における情報システム化に係るものについて、その一部又は全部が、府省共通システムの諸機能、政府共通プラットフォーム、各府省の共通基盤等で提供されるコミュニケーション系のサービスや業務系のサービスを SaaS として、当該サービスが利用検討の対象となる。

Step3：IaaS/PaaS（パブリック・クラウド）の利用検討と利用方針

SaaS の利用が**著しく困難である場合**、又は経費面の優位性その他利用メリットがない場合については、民間事業者が提供する IaaS/PaaS（パブリック・クラウド）が利用検討の対象となる。

Step4：IaaS/PaaS（プライベート・クラウド）の利用検討

IaaS/PaaS（パブリック・クラウド）の利用が**著しく困難である場合**、又は経費面の優位性その他利用メリットがない場合については、サーバ構築ができる政府共通プラットフォーム、各府省独自の共通基盤等を IaaS/PaaS として、当該サービスが利用検討の対象となる

オンプレミス・システムの利用検討

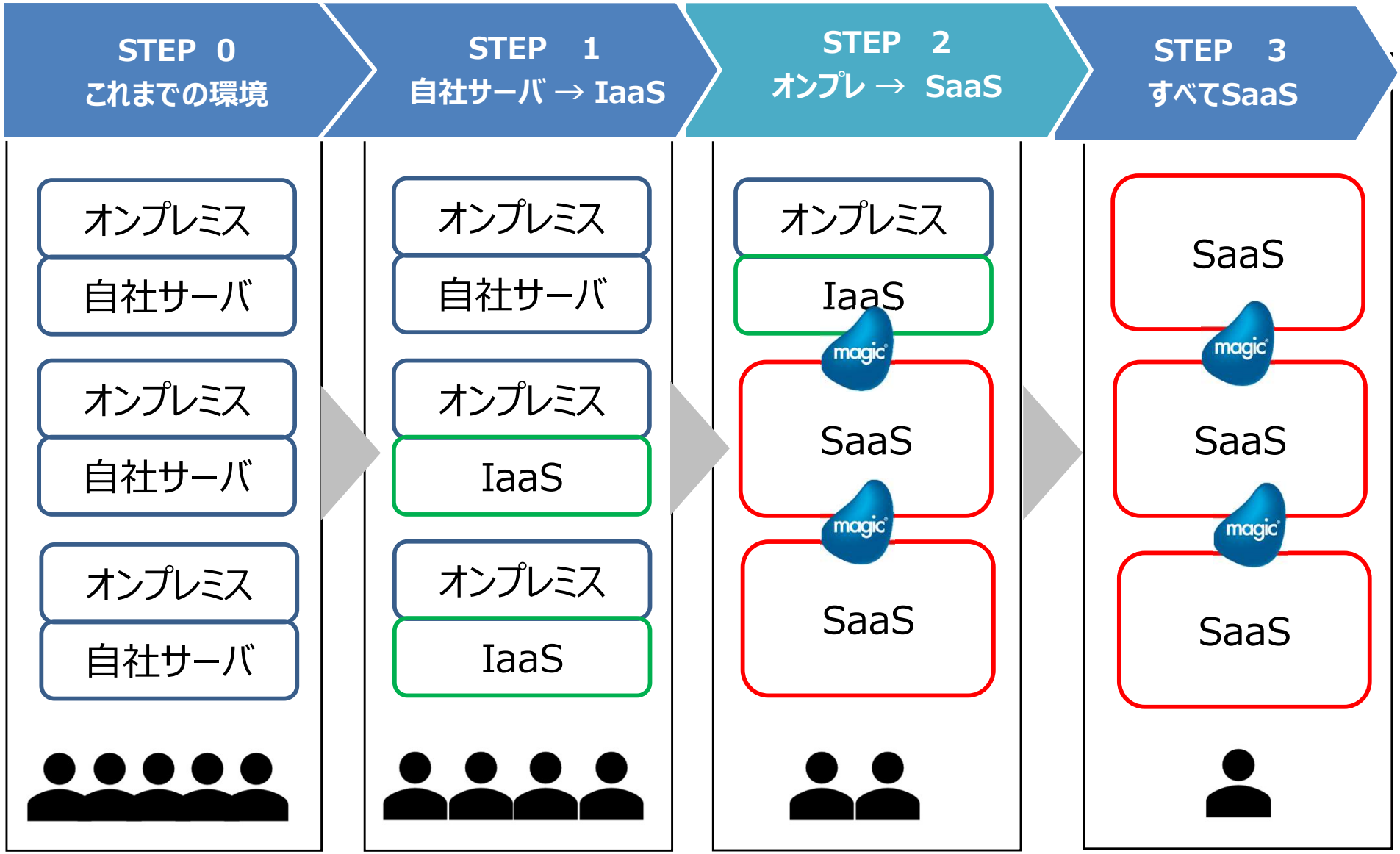
Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

ユーザ事例　DX推進への取り組み

Focus Systems

CloudToCloudを実現してるお客様の事例

↓現在実施中



Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

Focus Systems

基幹システム構築における方向性の変化

近年、日本企業の多くのお客様が、**基幹システム(CORE ERP)は**SaaS型ERPの標準機能を最大限活用し基幹システム内で実現できない機能をSaaSサービスや開発プラットフォームでFRONT SYSTEMで構築/運用するケースが増加傾向と感じてます。

FRONT SYSTEM

システムに業務を合わせる

OR/AND

業務にシステムを合わせる(作るシステム)

- ✓ **業務効率化や柔軟性**に追従できる機能を有し幅広い業務領域に対してもカバーができる仕組み **【効率化】**
- ✓ 基幹システムに影響を与えることなく、各事業会社が、事業の変化に**スピード感**を持ち主体的にIT投資を行える仕組み**【迅速化】**

CORE ERP

システムに業務を合わせる

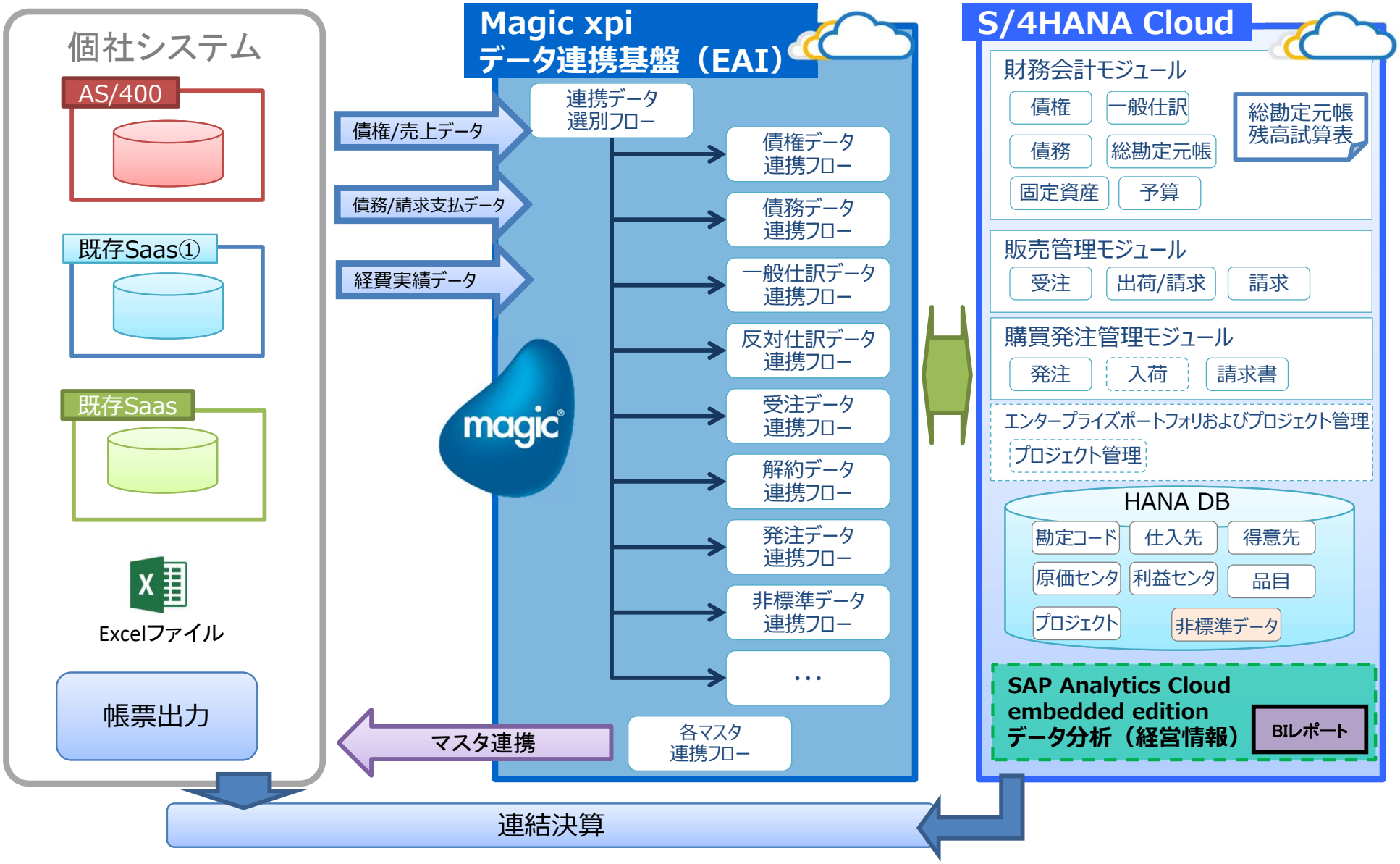
- ✓ **追加開発は行わず製品の標準機能や特性を最大限に活かす**
- ✓ **経営層へ迅速かつ正確な情報を提供出来る統合型の仕組み 【迅速化】**
- ✓ **長期にわたり安定稼働**できる信頼性の高い経営基盤(ERP) **【持続信頼性】**
- ✓ 常に最新環境であり、経営/事業変化や法定要件への高い対応力 **【質の向上】**

データ連携基盤

magic®

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Res

近年におけるお客様の傾向



Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

これからのMagic xpiに期待すること

お客様やパートナ企業と共に**成長し続けるMagic xpi**

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

これからの我々フォーカスシステムズの活躍を
フォーカスシステムズだけにフォーカスしていただければと思います。

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.

תודה לך על תשומת הלב

ご清聴ありがとうございました

Focus Systems

Copyright © 2022 Focus Systems All Rights Reserved.